

熊大病院ニュース

第28号

Kumamoto University Hospital

熊本大学病院 広報誌

特集P1～P2

AYA世代のがん

「がん治療の時期に人生の節目を迎えるAYA世代を支援するために」

イベント紹介P2

HOSPITAL TOPICSP3

*熊本大学病院ボランティア活動員の表彰式

*男女共同参画コーディネーターの会

知っ得! 納得! Q&AP4

じんましんについて

診療科・部門等紹介P5

*循環器内科

*「私のカルテ」がん診療センター・がん相談員サポートセンター

看護部だよりP6

看護部の療養支援への取り組み

総合案内裏表紙

ご自由にお取りください

2020年 春号



熊本大学病院

【理念】 本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

【方針】 ・高度な医療安全管理体制による安全安心で質の高い医療サービスの提供
・患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
・先進医療の開発・推進と優れた医療人の育成
・地域社会に貢献できる医療・防災の拠点形成

【患者さんの権利】 ・個人の尊厳と意向が尊重されます。
・良質な医療を公平に受ける権利があります。
・十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
・自分の意思で医療を選ぶことができます。
・プライバシーや個人情報が保護されます。

【患者さんの責務】 ・自分の健康状態について正確に伝えてください。
・治療に積極的に参画してください。
・社会のルール、本院の規則を守ってください。
・迷惑行為を行わないでください。
・医療費を遅滞なく支払ってください。



病院敷地内全面禁煙のお知らせ

皆様のご理解とご協力をお願いします。

熊本大学病院の建物内、敷地内(含む中庭、駐車場)および病院周辺の道路は全面禁煙です。喫煙を確認した場合は、来院者には退去勧告、入院患者さまには退院や転院を勧告いたします。禁煙へのご理解とご協力をお願いいたします。

看護師募集中

最先端の医療に携わってみませんか?

育児休業復帰支援プログラム実施中です!

担当:熊本大学病院 総務課 人事給与担当

☎ 096-373-5913





がん治療の時期に人生の節目を迎える AYA 世代を支援するために

【監修】 熊本大学病院 産科・婦人科 本原 剛志 講師

20～39歳のがんの約80%は女性が占めている

がんは1981年以来、日本人の死亡原因の第1位となっています。そして今や日本人の2人に1人はがんになる時代であり、現在日本では年間約100万人ががんと診断されています。

わが国におけるがん対策としては、2006年に「がん対策基本法」が制定され、この法律に基づいて5年を1期とする「がん対策推進基本計画」が実施されています。現在、2017年より第3期基本計画が推し進められています。その中でAYA (Adolescent and Young Adult) 世代と呼ばれる15～39歳の思春期ならびに若年成人に対するがん対策の重要性についてはじめて言及がなされています。

2019年10月に国立がん研究センターと国立成育医療研究センターから発表された最新の報告では、毎年約3万人のAYA世代の方が新たにがんと診断されており、その90%以上は20歳以上であること、そしてその中の約80%を女性が占めていることが示されました(図1)。

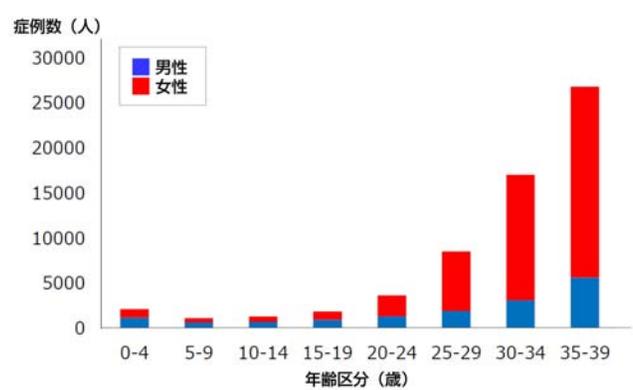
AYA世代のがんは、それぞれの年代によって発症しやすいがんの種類が大きく異なります(図

2)。15～19歳では小児期に多くみられる白血病やリンパ腫、脳腫瘍、骨軟部腫瘍といったいわゆる希少がんが高い頻度で認められる一方で、20歳代ではこれらのがん種の割合は徐々に減少していき、30歳代になると乳がんや子宮頸がんなど女性に関連するがんの発症頻度が急激に高まることを示されています。その中でも特に、AYA世代のがんの患者さんの多くを25歳以上の子宮頸がんが占めており、その上皮内腫瘍に相当する病態を含めると、全体の50%を越えていることが明らかにされました。

図1 男女別の年齢階級別罹患数

対象者数: 62,301人(0-39歳, 2016-2017年)

20～39歳のがんの約80%は女性である



がん診療連携拠点病院等院内がん登録 2016-2017年小児AYA集計 報告

2016年にAYA世代を中心としたがん生殖医療への取り組みを開始

このようなAYA世代のがんの患者さんは、治療を受けながら、就学や就職、結婚、出産、子育てなど、人生の大きな節目となる様々なライフイベントに直面することになります。そのため、個々の患者さんの世代に応じた多様なニーズに対応できるように、正確な情報提供や診療体制の整備が求められています。

熊本大学病院では、2016年4月に「生殖医療・がん連携センター」※を開設し、複数の診療科、専門の職種による連携を図りながら、AYA世代を中心としたがん生殖医療への取り組みを開始しています。特に、がん治療に伴う生殖機能の低下や妊孕性温存に関する問題に対して、一人ひとりの患者さんにとって最適な治療環境を提供することが

できるように、包括的な支援体制の構築を推進しています。

※生殖医療・がん連携センターHP

<http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/oncofertility/index.html>

図2 小児・AYA世代のがんの種類

罹患率が高いがん種順位(全がんに占める割合)

	1位	2位	3位	4位	5位
0~14歳 (小児)	白血病 [38%]	脳腫瘍 [16%]	リンパ腫 [9%]	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 [8%]	神経芽腫 [7%]
15~19歳	白血病 [24%]	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 [17%]	リンパ腫 [13%]	脳腫瘍 [10%]	骨腫瘍 [9%]
20~29歳	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 [16%]	甲状腺がん [12%]	白血病 [11%]	リンパ腫 [10%]	子宮頸がん [9%]
30~39歳	女性乳がん [22%]	子宮頸がん [13%]	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 [8%]	甲状腺がん [8%]	大腸がん [8%]

国立がん研究センターがん情報サービス

イベント紹介

一般財団法人 恵和会の助成により開催されている院内のイベント等をご紹介します。

クリスマス イルミネーション点灯式

2019年11月1日(金)毎年恒例のクリスマスイルミネーション点灯式を行いました。カウンタダウンとともに代表の子供達が生点灯スイッチを押すと、イルミネーションが点灯し参加者から大きな歓声があがりました。

クリスマスプレゼント

2019年12月24日(火)入院中の15歳以下の子供達にサンタさんからクリスマスプレゼントが贈られました。このイベントは、入院中のお子さん達に少しでもクリスマスの雰囲気を感じてもらうため、毎年クリスマスの時期に(一財)恵和会さんの支援を受けながら、平成13年12月から続けているものです。



熊本大学病院ボランティア活動員の表彰式を行いました

2019年10月16日(水)、熊本大学病院において「平成30年度活動にかかるボランティア活動員の表彰式」を行いました。

熊本大学病院では、日々ボランティア活動の方が、外来患者さんの案内や車いすの介助、病棟図書館での受付や本の整理、小児病棟でのおはなし会や音楽会の企画などの活動を行っています。

表彰は、一年を通してボランティア活動を行った活動員の方が対象で、今回は11名の方が受賞されました。

表彰式に出席した5名の方に、谷原秀信病院長から感謝状と記念品等が手渡され、改めて日頃の活動への感謝の意が述べられました。会場は拍

手に包まれ、和やかな雰囲気の中、式を終了しました。

※本院ではボランティア活動を募集しております。
詳しくは下記の「ボランティア活動員募集」をご覧ください。



【写真】ボランティアの方々に感謝の意を述べる谷原病院長

男女共同参画コーディネーターの会を開催しました

本院では平成26年度より、各診療科の医局長及び女性教職員1名の計2名が男女共同参画コーディネーターとなり、診療科所属の医療従事者に対し各種制度の紹介、勤務形態についての相談等、育児・介護と仕事との両立支援の一助を担っています。

また、年に1度、コーディネーターの会を開催し、本院及び熊本県内における医療従事者の男女共同参画に関する問題点の洗い出し、対応策についての意見交換、育児又は介護に関する支援制度の共有等を行っており、今年度の本会では、復職時の問題点や育児中の働き方をテーマとしたグループワークが実施され、各種支援制度や学

内規則の見直し、会議等の勤務時間内の開催等を求める意見等、活発な議論が行われました。



【写真】男女共同参画コーディネーターの会の様子

ご寄附のお願い

熊本大学病院では、若手医師をはじめとした医療人の教育・学術研究の支援並びに医療機器等の整備、大学病院の管理運営等に資するため、企業や個人の皆様の篤志に基づいて寄附金を受け入れております。またご寄附をいただいた場合、税制上の優遇措置を受けることができます。詳細は熊本大学病院ホームページをご覧ください。
<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/kifu.html>



スマホ・携帯電話の方はこちらから

【お問合せ】
熊本大学生命科学系事務課医学事務チーム研究支援担当 TEL096-373-5658

ボランティア活動員募集

●活動時間 月曜日～金曜日(休日を除く)8:30～17:00
※回数、時間をご相談に応じます。(週1回、2～3時間の活動でも可能です。)

●ボランティア内容
外来でのお世話、受診手続きの説明等、診療科等への案内、椅子の手配と介助、幼児の世話、通訳、手話通訳、視聴覚障害者への受診付添、自動再来受付機等の操作案内など
<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/volunteer.html>

【お問合せ】
熊本大学病院 医療サービス課外来担当 TEL096-373-5557



スマホ・携帯電話の方はこちらから



「じんましんについて」

じんましんは非常に身近な疾患です。しかし、じんましんとはどのようなものか、正確には説明できる方は少ないのではないのでしょうか。知っているつもりで、知らない、それがじんましんです。いったいどのような皮疹をじんましんというのか?どのように診断されるのか?治療はどのようにして行われるのか?最新の知見を含めてご紹介いたします。

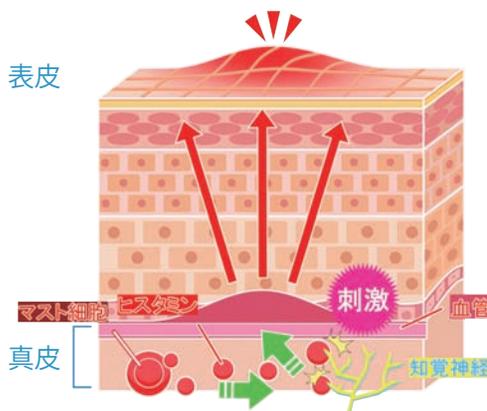
Q じんましんとは?



じんましんは、一時的にかゆみ(稀に痛み)を伴い皮膚が赤く盛り上がる状態です。ほとんどの場合は数時間から24時間で跡形無く消えてしまいます。そして、じんましんは出たり消えたりを繰り返し、人々を苦しめます。

じんましんは漢字で「蕁麻疹」と書き、別名で「刺(し)草(そう)」や「蕁(じん)麻(ま)」といわれる野草「イラクサ」に由来します。その葉の表面にはトゲのようなものがあり、触れると、じんましんのような皮膚症状を起こします。

図1 蕁麻疹(じんましん)の仕組み



ほとんどの蕁麻疹は原因不明なのです。



Q なぜ、じんましんになるのですか?



何らかの刺激が加わって、ヒスタミンなどの物質が血球から放出され神経が刺激されることで、かゆみが起こります。そして、血管が刺激され、血管が膨らんだところから水分が漏れ出て、皮膚が赤く盛り上がるのが分かっています(図1)。じんましんの原因が特定できるものを刺激誘発性じんましん、原因が特定できないものを特発性じんましんと言います。あまり一般には知られていませんが、原因が特定できる刺激誘発性じんましんは、全体の2割程度にとどまります。つまり、ほとんどのじんましんは原因不明なのです。

Q じんましんの治療はどのようなものですか?



治療の第1ステップは、抗ヒスタミン剤を内服します。もし悪化因子や誘因となる刺激が分かれば、その除去も大切です。そのうえでコントロールが不良であれば、飲み薬の増量、その後も効果がない場合は、H2受容体拮抗薬など様々な薬剤を併用します。それでも効果がないときは、副腎皮質ステロイド薬の少量の内服、免疫抑制剤の追加が推奨されています。また、近年は上記治療でコントロール不良であった方に、オマリズマブという製剤を4週間に一度皮下注射する画期的な治療も開発され良好な成績を収めています。

循環器内科



【写真】循環器内科カンファレンスの様子

循環器内科は、「胸が痛い」、「息が苦しい」、「動悸がする」、「血圧が高い」といった、心臓や血管に関連する疾患を対象とした診療科です。心筋梗塞などの急を要する疾患も含まれるため、24時間365日、常に患者様を受入れる体制を整えています。

心疾患の診断には、心臓の血管を造影したり(心臓カテーテル検査)、心臓の電気活動を詳細に測定したり(電気生理学検査)する方法を用います。いずれの検査も治療まで一度に行えるため、正確な診断と迅速な治療を行うことが可能です。また心臓超音波検査やCTなどの体への負担が少ない検査を併用することで、より安全な診療と早期退院が可能な環境を完備しています。また他の診療科の先生やコメディカルとで構成されるハートチームで診断・治療法を議論し、常に最良の医療を提供できるように心がけています。

心臓は放っておくと時に怖い病気です、気になる場合は遠慮せずに受診・ご紹介をお願いいたします。

「私のカルテ」がん診療センター・がん相談員サポートセンター



当事業は、がん診療連携の充実を図るとともにがん相談員等の資質向上及び連携体制を構築し、相談支援機能を充実させ、がん患者様とご家族の療養生活の質の維持向上を図る目的で熊本大学病院に設置されています。

「私のカルテ」がん診療センターは、がん診療

連携拠点病院とかかりつけ医および患者様ご自身とで共有するカルテ(がん診療連携パス)を運用しています。2010年に全国に先駆けて運用を開始し、今年で満10年を迎え、昨年末までに累計6400件を導入しています。今後ますます患者様にご利用いただけるよう「私のカルテ」の運用を推進して参ります。

がん相談員サポートセンターは、県内に18施設あるがん診療連携拠点病院内の「がん相談支援センター」やその内3施設で定期的開催している「がんピアおしゃべり相談室」、県内の各圏域に合計約30ヶ所ある「がんサロン」を中心に、がん患者等に対応する看護師やMSWであるがん相談員やがん経験者であるピアサポーターへの支援を行っております。



看護部の療養支援への取り組み

入院生活や退院後の生活を支援する「療養支援」に力を入れています

病院で治療された患者さんは、ご自宅へ退院されたり、リハビリ継続のために転院されたり、施設へ入所されたりと、様々な療養場所へ移行されます。看護部では、患者さんやご家族が、安心して次の療養の場へ移行し生活できるために、治療や生活についての悩みなどを聞いて入院生活や退院後の生活を支援する「療養支援」に力を入れています。

具体的には、療養支援ナースという支援の核となる看護師を各部署に配置して、療養支援を主体的に実践し、部署の看護師の支援も行っています。毎月各部署の療養支援ナースが集まり会議を開催し、患者さんの療養を支援していくための話し合いや、訪問看護師やケアマネジャー等の地域で患者さんの生活を支えている方々を招いての検討会も実施しています。

今年度の療養支援ナース会議では、訪問看護師の方と3回、地域包括支援センター（ささえりあ）の方々と1回、事例検討を実施しました。また、外来－病棟連携として、外来看護師と病棟看護師による合同会議を4回開催しました。



また、退院後、本院外来で治療を続ける方や介護保険や訪問看護などの在宅サービスを活用される方に、病棟と外来の看護師が連携するシステムを作り、定期的に病棟－外来連携会議を実施しています。訪問看護師や訪問診療医、ケアマネジャーなど、地域スタッフとの退院前カンファレンスには、外来の看護師や外来化学療法センターの看護師も参加し、外来で継続した看護が提供できるように取り組んでいます。退院時にお渡しする外来受診予約票に「ナース枠」という予約が入っている場合は、外来看護師による面談を行い、在宅生活で困っている事や今後の治療に関する不安などに対応しております。

患者さんやご家族が安心して療養できるように、院内職員や地域との連携をしっかりと取っていきます。今後どうぞよろしくお願い致します。

看護師による療養支援

患者さん・ご家族が安心・安全に在宅生活が継続できるために患者さん・ご家族の意向に添える療養支援に取り組みます！

病院で患者さんの生活に一番身近にいるのは看護師です！



